



# るうてる



2018年  
**6**月  
No.846

■発行所■  
日本福音ルーテル教会事務局広報室  
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1  
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト■ <http://www.jelc.or.jp>

■E-mail■ [jelc@jelc.or.jp](mailto:jelc@jelc.or.jp)

■発行人■ 安井宣生 koho06@jelc.or.jp

■印刷人■ 精文堂印刷株式会社

■定価■ 1部 40円 (郵税を含む)

■振替口座■ 00190-7-1734

## 説教 「立ち止まり、共に歩み出す」

小倉教会、直方教会 牧師 永吉徳高

イエスは、再び湖のほとりに出て行かれた。群衆が皆そばに集まって来たので、イエスは教えられた。そして通りがかりに、アルファイの子レビが収税所に座っているのを見て、「わたしに従いなさい」と言われた。彼は立ち上がってイエスに従った。イエスがレビの家で食事の席に着いておられたときのことである。多くの徴税人や罪人もイエスや弟子たちと同席していた。実に大勢の人がいて、イエスに従っていたのである。ファリサイ派の律法学者は、イエスが罪人や徴税人と一緒に食事をされるのを見て、弟子たちに、「どうして彼は徴税人や罪人と一緒に食事をされるのか」と言った。イエスはこれを見て、「医者を必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」

(マルコによる福音書 2章13〜17節)

私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。アーメン

地への権力者に統治を任せ、ある程度の自由と引き替えてに上納金を課し、ローマ帝国からは監督者を配置することに定めることで広

与えられた御言葉には、主イエスが徴税人レビを弟子として招かれた場面が記されています。

3人の息子たちに任せられました。そして、上納金の回収への怒りがローマに向かないように、ユダヤ人の中から徴税人が雇われたのです。

ルカ福音書に「ザアカイ」という人がいた。この人は徴税人の頭で、金持ちであった(ルカ19:2)とあるように、徴税人の中にも序列があったようです。定められた金額以上を集めれば、余剰を懐に入れることができたため、徴税人の頭は金持



ちだったのでしょうか。しかし、下っ端の回収者たちは、決して裕福ではなかったようです。決められた金額以上に回収しようものなら、民の怒りは真っ先に彼らにぶつけられ、それでも上乗せ分は頭に吸い上げられてしまう。同胞から「利子も利息も取ってはならない。」(レビ25:36)との律法に背き、異教の神を信じる外国人との交流を持つという理由で、宗教的な罪人と囁かれました。彼らは生きるために仕事を続けなければならなかったのです。



に働こうとも、道端の石ころのように無視され通り過ぎられる人生とは空しいものです。

そこに、主イエス一行がやってきたのです。群衆が後に従うほど主イエスの噂は広まっていたにもかかわらず、レビ自身も興味をもって様子を窺っていたことでしょう。すると、人々の注目の的である主イエスはレビの前で立ち止まり、なんと「わたしに従いなさい」(2・14)と招かれたのだというのです。

通り過ぎられる日々の中で、たったのおひとり、自らの前で立ち止まり、共に一緒に行動しようとする人に出会った。この出来事が、レビを立ち上げさせ、彼の内に全て捨てて従う想いを起こさせたのだと受け取りたいのです。

望みの神が、信仰からくるあらゆる喜びと平安とをあなたに満たし、聖霊の力によって、あなたがたを望みにあふれさせてくださるように。アーメン

して数えられていくということの意味は、それを御存知の上で、主イエスはレビの手を取られました。決して偶然の出来事などではなく、今後の人生を視野に入れた覚悟をもって、主イエスが彼を弟子として招かれたのだと気づかされます。このレビの召命の出来事こそ、社会の価値観とは異なり、神が彼を必要としておられること、そして、御国の宴に招かれることの証明であることを覚えてほしいのです。

他の弟子たちは、主イエスの徴税人を仲間に加える決断を受け入れられず沈黙しました。人が他者を罪人と定める時、その裏で、罪人ではない自分の評価が高められます。それは、他者よりも上に立つ「特別」こそ成功であるかのように語る競争社会の在り方と通じる理解です。

しかし、人が人の上に立ち、下に置かれる者が押しつぶされる構造と対峙し、主イエスは十字架へと続く道を歩まれました。私たちは、通り過ぎるのではなく、立ち止まることから始められた主より学びたいのです。

た。教会の方々のキリストの香りによって結ばれた、神様につながる新しい命の誕生に思わず号泣、感無量でした。

そんなわたしも、かつてキリスト教主義学校に通い、宿題で教会に行く中学生の一人でした。教会学校の教師の女性は毎週両手を広げて「おはよう！よく来たね」と迎えてくれました。高校生になり洗禮を願うと、牧師は「やったー！」とガッツポーズ。なぜこんなにも喜んでくれるのか、当時はよくわかりませんでした。が、時を経て、わたしが教会で共に過ごしていたのは小さなキリストだったことに気づきました。温かくて優しい彼らが放つキリストの香りに、わたしも育てられていたのです。

### ③すべてのキリスト者は、小さなキリストである」(ルター)

授業を終えて職員室に戻ると、わたしの机の上に手紙がありました。差出人は生徒。慌ただしく過ごすわたしとかなかなか会えないからと手紙に書かれていたのは受洗予定日と教会名。生徒が受洗するという、良き知らせを告げる手紙でした。手紙の最後の「待ってます！」の一言に胸が熱くなりました。洗礼の日。生徒は証しの中で「年に数回教会に行くのは学校の宿題だからでしたが、ある時何とせずに日曜日を過ごすより、教会で神様のことを知りたいと思い、毎週通うようになりました」と語りました。聖霊に押し出されるように導かれた生徒。キリストに出会ったのは学校でしたが、育ててくださったのは神様と教会の方々の祈りと愛です。

た。教会の方々のキリストの香りによって結ばれた、神様につながる新しい命の誕生に思わず号泣、感無量でした。

た。教会の方々のキリストの香りによって結ばれた、神様につながる新しい命の誕生に思わず号泣、感無量でした。

た。教会の方々のキリストの香りによって結ばれた、神様につながる新しい命の誕生に思わず号泣、感無量でした。

た。教会の方々のキリストの香りによって結ばれた、神様につながる新しい命の誕生に思わず号泣、感無量でした。

た。教会の方々のキリストの香りによって結ばれた、神様につながる新しい命の誕生に思わず号泣、感無量でした。

た。教会の方々のキリストの香りによって結ばれた、神様につながる新しい命の誕生に思わず号泣、感無量でした。

た。教会の方々のキリストの香りによって結ばれた、神様につながる新しい命の誕生に思わず号泣、感無量でした。

第24回  
**東教区宣教フォーラム**

日本の伝統に  
生きる私たち  
\*\*\*Vital\*\*\*

2018.7.7(土) 18:00-19:45

会場：上野聖堂(東京都台東区上野4-1-1)

主催：日本福音ルーテル教会東教区宣教フォーラム

第28回 日本福音ルーテル教会 定期総会報告

白川道生 (第27総会期総会書記)

退任・召天・新任教師の紹介があった後、議事に入り、「キリストに支えられ、育てられ、成長し、社会に仕える教会になろう」との標語のもと、12の議案が審議された。

◆第27総会期活動報告承認

まず、立山忠浩議長による議長報告では、2012年策定の第6次総合方針の中から、「震災支援・社会に仕える教会」、「財政課題への対応」、「宗教改革500年」の三つを優先課題と絞り込み取り組んだ実施状況が説明された。続いて、事務局長、各室長報告、世界宣教、各教区、

諸委員会、諸施設、関係団体からの活動報告が行われた。この部分は実に4時間にもおよぶ長時間を要したが、伝道教育奉仕と広範多様な働きが展開されている、ルーテルの共同体が示されたところでもあった。

方針の決定が総会に諮られた。まず積み上げた調査と所見を示しながら提案説明が行われた。そして採決の結果、事業継続のため対策を実施することの承認と、次回総会までに対策を立案し、実施計画として2020年に提案するとの工程が承認された。

・役員選挙

立山議長の任期満了を迎えた今期、選挙により第28総会期議長には大柴讓治牧師が選出された。また、副議長に永吉秀人牧師、書記は滝田浩之牧師、会計に木村猛さん(保谷教区)が選出された。加えて、2名の信徒選出常

議員、各教区長及び教区選出常議員によつて構成される、新常議員会の組織も承認された。

・礼拝式文の改定

2年前の前回総会で「主日礼拝式文の文言」の公式使用が承認された。本総会での提案は、「主日礼

拝式文の曲」の公式使用の開始であった。作曲者との協議を経て作業を担ってきた式文委員会(平岡仁子委員長)により、4パターンの中のメロディ案が議場で実演され、質疑と意見交換の後、使用開始が承認された。

・中ヶ谷会館収容事業

同建物の経年劣化と耐震性の確保を課題に、対応

豊島義敬会計より、27期の全体教会並びに諸部門の財務状況が報告され、好転した収益事業と、累積の欠損金の減少などの状況が説明された。また木村猛財務委員長より、予算説明がなされた。いずれも採決の結果、承認された。

第28回日本福音ルーテル教会定期総会が5月2日から4日にかけて、日本福音ルーテル教会宣教百年記念東京会堂(東京教会)において開催された。総会議員となる教職、信徒212名が全国から参集した。

聖餐礼拝から始まった総会は、続いて、来賓挨拶(日本キリスト教協議会、日本ルーテル教団)、更に

なお、引き続き、洗礼式や結婚式、葬儀などの「諸式」の作成を進め、すべてが出揃う新たな式文の採決には期間を置いて、2028年開催(予定)の定期総会において決議する、との工程も承認された。

\*詳細については、後日発行される定期総会議事録を参照ください。

総会議長に選出されて

大柴讓治



このたび立山忠浩議長の後を受けて総会議長に選出され、その重責に怖れとおののきを抱えています。担当する大阪教会ではちょうど5月よりヨナ書の聖研が始まりましたが、ヨナのように逃げ出したい気持ちもあります。しかし、総会での就任式の際に背後から力強く響く会衆の歌声『力なる神はわが強きやぐら』に押し出されるようにして覚悟を決めました。「主の山に、備えあり(イエラエ)(創世記22:14)というみ言葉と「わが恵み、汝に足れり」(2コリント書12:9)というみ言葉に頼り頼みながら、共に選出された永吉秀人牧師、滝田浩之牧師、木村猛さん、古屋四朗さん、伊藤百代さん、5教区の新常議員、事務局の皆さんとその責任を担ってまいりたいと思います。どうか皆さまの日々の祈りに覚えてください。復活の主の洗足の模範に倣いつつ、心を込めて神と隣人とに仕えてゆきたいと願っています。よろしく願いいたします。

事務局長に指名されて

滝田浩之



第28回日本福音ルーテル教会総会において、大柴讓治総会議長より事務局長に指名され、議場にて信任を受けました。これから2年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

1995年に按手を与えられ、板橋教会で5年、大阪教会で16年、2年前からは管財室長の任を与えられてきました。牧師の同労者、そしてたくさんの信徒の方々の後ろ姿を通して「仕える」ということを学ばせていただいたてきました。この職務を通して、また深く「仕える」ことを教えられていくのだと思います。

大柴議長の就任の挨拶に、「ルーテル教会はみ言葉の教会だ」という言葉がありました。私も「み言葉には力がある」と信じています。事務局長として何ができるか、まったく白紙の状況ではありますが、ルーテル教会が大切にしてきたものをきちんと継承し、現代における「み言葉に立つ教会」をみなさまと一緒に形作っていくことができればと願っています。

全国教師会報告

石居真実 (前総会期会長)

宗教改革500年を終えて、ルーテル教会はエキュメニカルな交わりの中で、いよいよ新しい時代の宣教を担うこととなります。その節目となる今年、2018年5月1日から2日にかけて、全国の教師会総会が宣教百年記念東京会堂を会場に開かれました。

総会は、2016年に行われた前総会以後の教師会の活動について、会長、安井宣生書記、和田憲明会計が報告を行いました。折しも2年前の総会は熊本地震直後で熊本地域の諸教会の被災状況やまた救援の働きについての報告がなされたことでしたが、その5月末に全国教師会では被災牧師家族の慰問とお見舞いを実施しました。そして、執行部は今後のために、「教職家族見舞金」規定の改変を今総会で提案し、死亡や重大疾病への見舞いだけでなく、被災にも対応する改正案が可決されました。

宗教改革500年の教師会としての記念事業につ

任期満了の書記、会計と共に会長も任を解かれ、新会長には立山忠浩師書記に三浦知夫師が選任され会計には池谷孝史師として相互扶助会会計に西川晶子師が会長からの推薦を受けて承認されました。



## ②喜望の家とディアコニア

釜ヶ崎ディアコニア・センター喜望の家 牧師 秋山 仁

エルスベート・ストロームとボド・ワルター。喜望の家と福音ルーテル・ブラウンシュヴァイク領邦教会の関わりを語る上で、この二人の宣教師の名前は欠かせないでしょう。

ストローム宣教師は、当初ドイツのミッドナイト・ミッションから日本に派遣されてきました。そして、1963年に釜ヶ崎に隣接する山王地域で保育所「西成ベビーセンター」の活動を始めました。当時の大阪教会の内海季秋牧師が責任を持つ形で、ストローム師の活動は始まりました。

釜ヶ崎で働くことを決めた理由について、ストローム師は、「社会福祉事業(教会の言葉で言いますと『ディアコニア』)という活



ボド・ワルター宣教師

動をやりたければ、『陰のところで始めない』というその仕事になる」と心の中で感じていたからです」と著書の中で書いています。日本滞在10年目で、活動場所を模索していた彼女は、たまたま大阪で西成区の釜ヶ崎を訪れ、「日本の社会の一つの陰の所」と思い、そこで働くことを希望したわけ

です。

ドイツ福音ルーテル教会連合会では、釜ヶ崎でのストローム師の活動を支援することを、1968年の段階で決定し、ドイツ・ブラウンシュヴァイク福音ルーテル領邦教会がストローム師を宣教師として改めて派遣することになりました。そして、1974年にブラウンシュヴァイク福音ルーテル教会がドイツ福音ルーテル教会連合の仲介で、日本福音ルーテル教会と正式の姉妹関係を締結するのです。

これに前後して1970年にはストローム師は、釜ヶ崎で活動していた神父や牧師、シスターたちと釜ヶ崎キリスト教協友会を結成して、共同で地域の

問題に取り組み始めます。1973年ごろからは、彼女は釜ヶ崎のアルコール問題とかかわるようになり、1975年には断酒サークル「むすび云」を始め、翌年1976年1月に古い倉庫兼住居を購入し、同じ年の11月に開設されたのが、喜望の家でした。

1977年には、喜望の家に日本福音ルーテル教会から初代の邦人牧師として重野信之牧師が派遣されました(1984)。それから42年、喜望の家は釜ヶ崎の中でアルコール依存症の方々の回復のための支援を継続的に行っています。ストローム師がいなければ、喜望の家は存在しなかったでしょう。ストローム宣教師は、1983年に引退され、ドイツに帰国されました。保



喜望の家

育所「西成ベビーセンター」は、その2年後に「山王こどもセンター」として自立、教会の手を離れました。1986年ストローム師の後任として来日したのがボド・ワルター宣教師です。ワルター師は、ブラウンシュヴァイクにあるルーカス・ヴェルク事業団から、アルコール依存症に関するソーシャル・セラピストとして派遣されてきました。そして、喜望の家は1988年以降、同事業団でおこなわれているセラピー・プログラムをモデルとした「自立生活支援プログラム」を、ワルター師の指導と助言のもと始めていきます。この「自立生活支援プログラム」は、利用者が断酒決断を維持していくことを支援し、入院治療に代わる社会的リハビリテーションを行うことを目的として考えられたもので、現行の社会福祉制度や医療制度では適切なリハビリテーションの可能性があります。性を持つことができない日雇い労働者の実情にあわせてたものでした。ワルター師は、セラピーの実践を通して職員の利用者に対する関わりを指導してい

きました。1992年にワルター師は任期を終えてドイツへ帰国されました。ディアコニア、それは新約聖書の「給仕する」という言葉を語源として、人と社会に「仕えていく」というキリスト教の働きで、特に19世紀にプロテスタント教会で実践的に、また理論的に発達してきたものです。当時のあらゆる社会問題に関わった教会の取り組みでしたし、現在もまたそうです。

ストローム師とワルター師が伝えようとしたディアコニアの心は、釜ヶ崎における様々な働きとして、定着しています。

※前号掲載①「歴史と感謝」のドイツ・ブラウンシュヴァイク福音ルーテル(州立)教会をドイツ・福音ルーテルブラウンシュヴァイク領邦教会へ、また総幹事ヘンニエ・ベッカーを上席総幹事ヘンニエ・ベッカーへ訂正します。

**神の恵みによる解放**  
『聖公会ルーテルの黙想』  
日本聖公会・JELCエキュメニズム委員会  
2018年5月20日(聖書編纂)刊行

世界中から選ばれた両教会の人々による黙想と、両教会の伝統的文書・聖書の引用による、6週間分の日々の黙想です。ダウンロード自由のPDF版に加え、書籍版も提供します。詳細は、日本福音ルーテル教会のウェブサイトからご確認ください。

現代のローマ・カトリック教会の教皇たちは、第一バチカン公会議以後、教三致への強い責任感を示してきました。「教会はキリストにおけるいわば秘跡、すなわち神との親密な交わりと全人類一致のしるしであり道具(『教会憲章』1項)だから。それは「すべての人を二つに分けてください」(ヨハネ17:21)とのイエスの言葉にさかのぼる使命です。

「すべてのキリスト者間の一致を回復しよう促進すること」は、聖なる第一バチカン公会議の主要課題の一つである(『エキュメニズム』に関する教令第一項)。

「キリストを信じる人々は、ともに結ばれて殉教者たちの跡を追おうとすれば、分裂したままではいられないこと」は、

「カトリックと宗教改革500年」(発行・カトリック中央協議会・制作・宗教改革500年記念行事準備委員会)を作成しました。編集責任を負われた光延一郎神父(イエスス会上智大学教授)よりご提供いただき、紹介します。

手を離れました。1986年ストローム師の後任として来日したのがボド・ワルター宣教師です。ワルター師は、ブラウンシュヴァイクにあるルーカス・ヴェルク事業団から、アルコール依存症に関するソーシャル・セラピストとして派遣されてきました。そして、喜望の家は1988年以降、同事業団でおこなわれているセラピー・プログラムをモデルとした「自立生活支援プログラム」を、ワルター師の指導と助言のもと始めていきます。この「自立生活支援プログラム」は、利用者が断酒決断を維持していくことを支援し、入院治療に代わる社会的リハビリテーションを行うことを目的として考えられたもので、現行の社会福祉制度や医療制度では適切なリハビリテーションの可能性があります。性を持つことができない日雇い労働者の実情にあわせてたものでした。ワルター師は、セラピーの実践を通して職員の利用者に対する関わりを指導してい



エルスベート・ストローム宣教師

きましました。1992年にワルター師は任期を終えてドイツへ帰国されました。ディアコニア、それは新約聖書の「給仕する」という言葉を語源として、人と社会に「仕えていく」というキリスト教の働きで、特に19世紀にプロテスタント教会で実践的に、また理論的に発達してきたものです。当時のあらゆる社会問題に関わった教会の取り組みでしたし、現在もまたそうです。

ストローム師とワルター師が伝えようとしたディアコニアの心は、釜ヶ崎における様々な働きとして、定着しています。

現代のローマ・カトリック教会の教皇たちは、第一バチカン公会議以後、教三致への強い責任感を示してきました。「教会はキリストにおけるいわば秘跡、すなわち神との親密な交わりと全人類一致のしるしであり道具(『教会憲章』1項)だから。それは「すべての人を二つに分けてください」(ヨハネ17:21)とのイエスの言葉にさかのぼる使命です。

「すべてのキリスト者間の一致を回復しよう促進すること」は、聖なる第一バチカン公会議の主要課題の一つである(『エキュメニズム』に関する教令第一項)。

「キリストを信じる人々は、ともに結ばれて殉教者たちの跡を追おうとすれば、分裂したままではいられないこと」は、

「カトリックと宗教改革500年」(発行・カトリック中央協議会・制作・宗教改革500年記念行事準備委員会)を作成しました。編集責任を負われた光延一郎神父(イエスス会上智大学教授)よりご提供いただき、紹介します。

パウロ2世 教皇回勅『キリスト者の一致 Ut Unum Sint』(1965年、1項)。

1964年11月21日 第二バチカン公会議「エキュメニズムに関する教令」公布

2017年10月31日 宗教改革から500年 もはや争いなどなく一つとなるために

第二バチカン公会議 エキュメニズムに関する教令

カトリック教会は、日本のカトリック教会の皆さんに宗教改革500年共同記念の意義を知らせるため、リーフレット『カトリックと宗教改革500年』(発行・カトリック中央協議会・制作・宗教改革500年記念行事準備委員会)を作成しました。編集責任を負われた光延一郎神父(イエスス会上智大学教授)よりご提供いただき、紹介します。

# ルーテル子どもキャンプへ行こう！

甲斐友朗(シオン教会)

毎年恒例のルーテル子どもキャンプが今年も行われます。今年は記念すべき20回目です。子ども



キャンプは東京と広島毎年交互に行われており、今年は広島で行われます。

広島でのキャンプのテーマは、やはり「平和」です。キャンプでは、原爆資料館や平和の門、原爆ドーム、原爆の子の像などを巡ります。実際に被災地ヒロシマの街を歩く

ことで、平和の尊さを肌で感じることができるとでしょう。またキャンプでは、聖書が語る平和についても学びます。

今年の主題聖句は「平和のきずなで結ばれる」(エフェソ4・3)です。キャンプでは、この主題聖句を含め、平和についてのいくつかの聖書の御言葉を読み、聖書が語る平和について共に考えます。

何だかちょっと難しく、そう感じるお友だちもいるかもしれませんが、大丈夫です。キャンプにはちゃんと楽しみも用意されています。お好み村で本場広島のお好み

焼きが食べられるのも楽しみのひとつです。

だから、みんな、どしどし申し込んでね！知り合いが誰もいなくて不安だなあというお友だちも大丈夫です。街を一緒に歩いたり、お好み焼きを一緒に食べたりするうちに、いろいろなお友だちと仲良しになれるよ。安心して申し込んでね。

また、同時にスタッフも募集しています。「甲斐さん、もうキャンプ来なくていいです」という連絡が来るくらい、スタッフが集まることを期待しています(笑)。リーダーは18才から、ジュニアリーダーは高校生から申し込

めます。知識や経験がなくても、周りのスタッフがサポートしてくれますので、安心して申し込んでください。また、裏方としてキャンプを支えてくださるスタッフも募集しています。キャンプの対象は小学5、6年生です。日程は8月7日(火)〜9日(木)、場所はルーテル広島教会です。ヒロシマで会いましょう！



詳しくは、二次元コードからサイトへアクセスしてください。

## オルガンは地域の財産

野村陽一(大分教会)

4月18日、大分教会にパイプオルガンが完成し、聖別式に続き試奏が行われました。平日午後の開催で出席者は限られたものの、その多くは新聞報道により集まった一般市民でした。オルガンは、足鍵盤付き手鍵盤2段、10ストップという大きめの小型オルガン、最低音は16フィートの重低音です。

礼拝堂には最初からオルガン用バルコニー(耐重2トン)があり、そこに設置するため、礼拝堂内に大がかりな足場が天井近くまで必要でした。オルガンは、イタリ

ア北東部の谷間にあるアンドレア・ゼーニ工房が製作し、日本の教会に納入した最初のオルガンになりました。

イタリア国内の教会にはゼーニ・オルガンがありますが、日本の教会では初めて聞く名前であり、価格が非常に安く、CDで聴く音は明るいが多少軽い感じなど



の不安はありません。しかし、決め手になったのは、オルガン製作の要ともいえるパイプの音色や響きの整音に非常に高い評価を得ている工

房だったことです。予想通り、残響の多い礼拝堂にしっかりと対応した素晴らしい音色のオルガンが完成しました。

4月9日から10日間、組立・整音作業が行われ、これを地域に公開しました。数年前、大学の同窓生で地元民間放送局の幹部に、オルガンを導入するが組立作業など興味はあるかと打診する

と「ぜひ撮らせて」との答えでした。大分ではめったに見られない光景だからです。それで今回、事前に大分県庁記者クラブにある各報道機関のメールボックスに案内を投げ込みました。

報道各社の取材、新聞を見た見学者が相次ぎ、関心の高さは予想以上でした。「自分の身近にパイプオルガンがあるなんて」「ぜひ演奏会を」と近所の人。オルガンを聞きたくて礼拝に出席する人も。オルガンによつて無料で教会を宣伝してもらったようです。

もはや1教会の礼拝だけのオルガンにはできません。世間の関心の高さにオルガンが地域の財産でもあることを教えられました。

「連絡先変更」  
召天牧師配偶者  
石田グロリアさん  
187-0032 東京都小平市  
小川町2-1306-19  
電話 090-4114-6263  
<https://fcarepark.wordpress.com/>



2011年3月11日の原子力発電所大惨事を伴った東日本大震災の発生直後から、福島県北の教会が集まり、様々な形の被災者支援をしました。また2013年の話し合いで放射線被ばくを恐れて外遊びができない子どもた

この遊び場は子どもたちの追加被爆を少なくするだけでなく、本心に楽しい、次のような場になっています。  
・自然にできた年齢関係なく一緒に遊べる場  
・年齢を問わず人と交わる場  
・小さい子ども大きい人もお互いを認め合っている小規模な実社会のような場  
私たちはこれからも福島の子どもたちと保護者の方たちのために、より良い成長の場、より魅力的な子育ての場を工夫し提供していきたいと思っております。